

■沖縄防災カレンダー-災害等記載名称補足説明資料

1月

月	日	記載名称	概要	備考
1	6	石垣島北方沖の地震1915	石垣島北方沖の地震。発生：大正4(1915)年1月6日。マグニチュード：7.4。震度：石垣島で強震(5弱又は5強)。特記事項：石垣島で石垣の崩壊105箇所。	「日本被害地震総覧 599-2012」(宇佐美龍夫著、2012年9月20日発行、東京大学出版会)P269
1	12	桜島噴火1914	「大正大噴火」。発生：大正3(1914)年1月12日。死者：58名。特記事項：噴火開始から約8時間後にマグニチュード7.1の強震が発生。	気象庁HP <https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/fukuoka/506_Sakurajima/506_history.html>
1	13	三河地震1945	三河地震。発生：昭和20(1945)年1月13日。マグニチュード：6.8。最大震度：5(三重県 津市島崎町)。津波：あり。死者：1,961名。	気象庁HP <https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai-1995.html>
1	17	平成7年(1995年)兵庫県南部地震1995	「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」(阪神・淡路大震災)。発生：平成7(1995)年1月17日。マグニチュード：7.3。最大震度：7(神戸市等阪神淡路地域の現地調査)。被害：死者6,434名、行方不明3名、住家全壊104,906棟、住家半壊144,274棟、全半焼7,132棟。特記事項：気象庁は「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」と命名した。政府はこの地震によって生じた災害を「阪神・淡路大震災」と呼称することを閣議決定した。	気象庁HP <https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai-1995.html>
1	18	荷客船祐清丸沈没1957	与那国島航路の荷客船祐清丸(ゆうせい)丸が与那国島沖で沈没。発生：昭和32(1957)年1月18日。概況：同年1月17日に与那国島の荷客船祐清丸が悪天の中石垣港を出港し、西表島に寄港。翌18日与那国島沖で浸水し沈没。その後、台湾の軍艦に船員・乗客28名中11名が救助された。死者・行方不明者：17名。	「与那国沖 死の漂流」伊良皆高吉著 南山社
1	20	沖縄で低温被害1963	「昭和38年豪雪」(沖縄で低温被害)。期間：昭和37(1962)年12月～昭和38(1963)年2月。概況：北陸地方を中心に東北地方から九州にかけての広い範囲で発生した大雪。死者・行方不明者：231名。観測値：1月20日に日最低気温2.9℃(久米島、沖縄県内過去最低)。特記事項：沖縄各地で1月上旬～3月上旬にあられ、霜、凍露の現象が連日のように観測され、霰による果実の被害、水稲、さとうきび、甘藷、パインが枯死するなどの農作物被害があった。	参考文献：琉球気象台の異常気象報告No.1「1963年1月の異常寒波」(1963年3月)
1	24	沖縄本島地方でみぞれ観測2016	沖縄本島地方でみぞれ観測。期間：平成28(2016)年1月24日～25日。概況：大陸からの強い寒気の影響で、沖縄管内の多くの地点で「日最低気温の低い方から」の通年の極値を更新。観測値：日最低気温6.1℃(那覇)。特記事項：24日夜遅くに名護で、25日未明に久米島でみぞれを観測。「みぞれ」は観測分類上「雪」に含まれる。また、25日未明に那覇で氷あられを観測。	沖縄気象台HP(沖縄地方の天候) <https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/tenkou/year/tenkou2016.pdf> 沖縄地方顕著現象報告(第45号) <https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/kencho/2016/02.pdf>

2月

月	日	記載名称	概要	備考
2	1	南大東島地方気象台創立記念日	大正6(1917)年、当時南大東島で気象観測を行っていた製糖会社の私設気象観測所を起源として、昭和17(1942)年2月1日に中央気象台南大東島観測所として業務を開始。その後、太平洋戦争で一時業務を中断するも、昭和25(1950)年に米国軍政府に移管し、琉球気象局南大東島観測所に改称。昭和40(1965)年に南大東島気象台、昭和47(1972)年の本土復帰により南大東島地方気象台に改称し現在に至る。	南大東島地方気象台HP 気象台の沿革 <https://www.data.jma.go.jp/daitou/shosai/enkaku.html>
2	5	平成18年豪雪	「平成18年豪雪」。概況：非常に強い寒気が日本付近に南下し、強い冬型の気圧配置が断続的に出現し、日本海側では記録的な大雪となった。期間：平成17(2005)年12月～平成18(2006)年3月。被害：死者152名、負傷者2,145名、住家全壊18棟、半壊28棟、一部損壊4,667棟、床上浸水12棟、床下浸水101棟など(消防庁：平成18年3月31日現在)。特記事項：各地で積雪の12月としての最大記録を更新するとともに、東日本と西日本では12月の月平均気温が戦後最も低くなった。	気象庁HP <https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/2005/200512/gousetsu18.html> 消防庁資料 <https://www.fdma.go.jp/disaster/info/assets/post423.pdf>
2	17	久米島でみぞれ観測1977	久米島でみぞれ観測。期日：昭和52(1977)年2月17日未明。概況：気圧配置が西高東低の冬型で日本列島全体が大寒波に見舞われた。観測：みぞれ(久米島)。特記事項：「みぞれ」は観測分類上「雪」となり、沖縄ではじめて雪を観測した記録となる。	気象庁HP <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/faq/faq1.html#27> 参考文献：異常気象報告 第6号 昭和52(1977)年1月～12月 沖縄気象台発行(昭和53年3月)
2	19	図南丸等多数船舶遭難1955	沖縄近海を航行中の多数の船舶を猛烈な季節風が襲う。発生：昭和30年(1955)年2月19日。概況：南西諸島を顕著な寒冷前線が通過し猛烈な季節風の吹き出しが発生。特記事項：沖縄近海で影響を受けた船舶は多数あったが、その中で南大東を出港した大東航路定期貨客船「図南丸(とんまる)」が、沖縄本島と大東島間を通過した寒冷前線による強風や海上しけの影響を受けて消息を断った。約10日後に恩納村谷茶部落の海岸に図南丸から投げられたと思われる救助を求める内容の文書の入った小瓶が漂着。乗員・乗客あわせて30名が行方不明となった。	琉球測候時報(1955)第5巻第3号(P1～7) 1955年3月1日 琉球新報
2	27	沖縄本島近海の地震2010	沖縄本島近海の地震。発生：平成22(2010)年2月27日。マグニチュード：7.2。最大震度：5弱(糸満市)。津波：0.1m(南城市安座真)、微弱(南大東漁港)。被害：負傷者2名、住家一部破損4棟。	気象庁HP <https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/higai/higai1996-new.html> 気象庁報道発表資料 <https://www.jma.go.jp/jma/press/1002/27a/201002270715.html>

3月

月	日	記載名称	概要	備考
3	1	西表島付近の地震2018	西表島付近の地震。発生：平成30(2018)年3月1日。マグニチュード：5.6。津波：なし。最大震度：5弱(竹富町)、他沖縄県で震度4～1を観測。特記事項：緊急地震速報(警報)を発表。西表島で長周期地震動階級1を観測。	気象庁HP < https://www.jma.go.jp/jma/press/1803/02a/201803020100.html >
3	3	昭和三陸津波1933	「昭和三陸地震」。発生：昭和8(1933)年3月3日。マグニチュード：8.1。最大震度：5(岩手県 宮古市鍛ヶ崎など6点)。津波：岩手県沿岸の津波は10m以上、特に綾里湾では28.7mにも達した。被害：死者・行方不明者は3,064名。	「日本被害津波総覧[第2版]」(渡辺偉夫著、1998年2月25日第2版発行、東京大学出版会)P114-121 気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai-1995.html >
3	11	東日本大震災2011	「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」(東日本大震災)。発生：平成23(2011)年3月11日。マグニチュード：9.0(モーメントマグニチュード)。最大震度7(宮城県栗原市)。津波：あり(9.3m以上)。被害：死者19,765名、行方不明2,553名、茨城県や千葉県等では、液状化による建物や道路の被害も発生。特記事項：国内観測史上最大規模の地震。気象庁は「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」と命名した。政府はこの地震を「東日本大震災」と呼称することを閣議決定した。	気象庁【気象庁技術報告第133号(2012年)】「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の概要」 被害は令和5年3月1日現在(消防庁) < https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/gizyutu/133/ABSTJ.pdf >
3	11	石垣島北東沖の地震1958	石垣島北東沖の地震。発生：昭和33(1958)年3月11日。マグニチュード：7.2。最大震度：5(石垣島・宮古島・西表島)。被害：死者2名、家屋破損、塀倒壊。	「日本被害地震総覧 599-2012」(宇佐美龍夫著、2012年9月20日発行、東京大学出版会)P370
3	13	与那国島近海の地震1966	与那国島近海の地震。発生：昭和41(1966)年3月13日。マグニチュード：7.8。最大震度：5(与那国島)。被害：死者2名(与那国島)、台湾で死者4名。	被害は「日本被害地震総覧 599-2012」(宇佐美龍夫著、2012年9月20日発行、東京大学出版会)P408
3	23	有珠山噴火1822	発生：文政5(1822)年3月23日。死者：103名(火砕流による)。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/vois/data/sapporo/112_Usu/112_history.html >
3	25	能登半島地震2007	「平成19年(2007年)能登半島地震」。発生：平成19(2007)年3月25日。マグニチュード：6.9。最大震度：6強(石川県 七尾市、輪島市、穴水町)。津波：あり。死者：1名。負傷者356名。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/higai/higai1996-new.html#higai2006 >
3	29	スマトラ島沖地震2005	インドネシアスマトラ島沖にて地震。発生：平成17(2005)年3月29日。マグニチュード：8.6。津波：あり。死者：インドネシアのニース島を中心に死者多数。	地震の規模(M)はUSGS(アメリカ地質調査所)による内閣府防災情報のページ < https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h17/bousai2005/html/honmon/hm140102.htm >
3	29	本島南部で竜巻被害1997	本島南部で竜巻被害。発生：平成9年(1997)年3月29日。概況：寒冷前線の通過に伴い、沖縄本島南部一帯で竜巻が発生。被害：重症者1名、軽傷者4名、住家一部損壊1棟、佐敷町(現南城市)で乗用車が崖下に転落、コンクリート製電柱倒壊、ビニールハウス倒壊など。特記事項：藤田スケールはF2。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/1997032901/list.html >

4月

月	日	記載名称	概要	備考
4	3	本島中部で竜巻被害2002	低気圧の影響で竜巻が発生。発生：平成14(2002)年4月3日。概況：東シナ海低気圧・気圧の谷・暖気の移流。被害：負傷者1名、住家被害2棟、車両被害(反転4台、横転18台、損傷34台)。特記事項：藤田スケールF2。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/2002040301/list.html >
4	5	南大東島で雷被害1991	南大東で雷被害。発生：平成3(1991)年4月5日。概況：暖かく湿った空気の影響で南大東島全域で激しい雷。被害：落雷により、防災無線設備や簡易水道汲上ポンプ破損、小中学校インターホン故障、一般家庭加入電話故障56件、電気製品故障多数等の被害。	沖縄気象台(気象災害報告、通年番号199102「1991年4月5日の沖縄県における雷による落雷害」)
4	7	久米島で竜巻被害1991	久米島で2つの竜巻が発生。発生：平成3(1991)年4月7日。概況：暖気の移流、寒冷前線。被害：負傷者1名、住家被害19棟、車両破損5台、ビニールハウス10棟、2トントラック横転など。特記事項：藤田スケールF2(清水小学校付近発生)とF1～2(仲泊小学校付近発生)。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/1991040701/list.html > < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/1991040702/list.html >
4	14	熊本地震2016	「平成28年(2016年)熊本地震」(1回目)。発生：平成28(2016)年4月14日。マグニチュード：6.5。最大震度：7(熊本県 益城町)。被害：死者267名(関連死を含む)、重軽傷者2,804名、住家被害205,878棟、土石流・地すべりがけ崩れ等の土砂災害190件。特記事項：熊本地震の最初の地震。2日後の4/16に2回目の7を観測する地震が発生。特記事項：3日間のうちに同一観測点で2度も震度7が観測されたのは、気象庁の観測史上初。	気象庁HP < https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/gizyutu/135/ALL.pdf >
4	16	熊本地震2016(2回目)	「平成28年(2016年)熊本地震」(2回目)。発生：平成28(2016)年4月16日。マグニチュード：7.3。最大震度：7(熊本県 益城町、西原村)。被害：4/14の地震に含めている。特記事項：4/14の地震に続き2回目の震度7の地震。	気象庁HP < https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/gizyutu/135/ALL.pdf >
4	18	青ヶ島噴火1785	「天明5年噴火」。発生：天明5(1785)年4月18日。死者：130～140名。特記事項：火砕物降下一溶岩流。噴火場所は丸山火砕丘。4月18日火口原から噴火を始め噴煙、赤熱噴石、泥土噴出、5月頃まで続く。生存者は八丈島に避難し、以後50余年無人島となる。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/322_Aogashima/322_history.html >

4	24	明和の大津波1771	「八重山地震津波」。発生: 明和8年3月10日(1771年4月24日)。マグニチュード: 7.4。津波: 石垣島南東部で30m程度と推定。最大震度: 4程度と推定。被害: 死者・行方不明者約11,000名、家屋流失約2,000戸。特記事項: 石垣島、宮古島では明和の大津波によって運搬されたと考えられる大石が点在している。	「日本被害地震総覧 599-2012」(宇佐美龍夫著、2012年9月20日発行、東京大学出版会)P114-116 「八重山の明和の大津波」(牧野清著、昭和56年11月1日再版発行)
---	----	------------	---	---

5月

月	日	記載名称	概要	備考
5	6	東海・関東地方で竜巻被害2012	東海・関東地方竜巻災害。期日: 平成24(2012)年5月6日。概況: 日射の影響で地上の気温が上昇したことなどにより大気の状態が非常に不安定となった。気象庁が確認した竜巻は茨城県つくば市など4つ。特記事項: 藤田スケールはF0~F3。	気象庁等報告書「平成24年5月6日に発生した竜巻について(報告)」 < https://www.jma.go.jp/jma/press/1206/08b/toppuh_oukoku120608.pdf >
5	6	本島南部で突風災害2020	那覇市具志で突風災害。発生: 令和2(2020)年5月6日。概況: 沖縄地方は梅雨前線や低気圧の影響で大気の状態が非常に不安定となっていた。被害: 床上浸水4棟、床下浸水8棟、がけ崩れ7か所、車両15台損傷(突風)。特記事項: 沖縄本島地方で記録的短時間大雨情報発表。沖縄本島地方に竜巻注意情報発表。	沖縄気象台(沖縄地方顕著現象報告) < https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/kencho/2020/04.pdf > 沖縄気象台(現地災害調査報告) < https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/kencho/T2020/20200506_toppu_houkoku.pdf >
5	9	奥武島漁船団遭難1951	台風アイリスによる奥武島漁船団遭難。発生: 昭和26(1951)年5月9日。概況: 台風第4号アイリスは先島の南海上から東北東進し、大東島付近を通過。被害(沖縄全域): 死者3名、行方不明者70名、くり船流失31隻。特記事項: 奥武島誌によると奥武島での被害は死亡2名、行方不明者39名。暴風雨警報が発せられた頃には出漁した船は漁場に到着したばかりで、当時のくり船には通信設備が全くなく、暴風雨警報を知らせることがなかったという。	「奥武島誌」(奥武区自治会、『字誌』編集委員会、2011年3月発行) 「沖縄気象台百年史 資料編」(沖縄気象台、平成4年3月発行)
5	12	八重山地方で大雨2020	梅雨前線による短時間強雨。発生: 令和2(2020)年5月12日。概況: 梅雨前線の影響で石垣島地方で大雨。観測値: 日最大1時間降水量126.0mm(石垣島)。被害: 床下浸水2棟、車両水没などの被害。特記事項: 日最大1時間降水量126.0mmは石垣島の歴代1位。この雨で八重山地方記録的短時間大雨情報発表。	沖縄気象台(気象災害報告「2020年5月12日の沖縄県(石垣市及び八重山郡)における大雨 強雨 雷による浸水害 落雷害」通年番号202002)
5	12	中国四川省大地震2008	中国・四川省大地震。発生: 平成20(2008)年5月12日。モーメントマグニチュード: 7.9。特記事項: 中国では死者69,000名以上。中国でこれほど大きな被害が生じた地震は、1976年の唐山地震(M7.8、死者242,800名)以来。	気象庁「平成20年5月 地震・火山月報(防災編)」 < https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/mont_hly/200805/monthly200805.pdf >
5	13	与那国島で大雨2019	与那国島地方で大雨。発生: 令和元(2019)年5月13日。概況: 気圧の谷の影響で与那国島地方で大雨。観測値: 日降水量437.5mm(与那国島)、床上浸水9棟、床下浸水18棟、牛1頭とヤギ1頭が溺死するなどの被害。特記事項: 日降水量437.5mmは与那国島の歴代3位、1時間降水量98.5mm及び24時間降水量437.5mmは5月の歴代1位。	沖縄気象台(気象災害報告「2019年5月13日の沖縄県(石垣市及び八重山郡)における大雨 強雨による浸水害 山がけ崩れ害」通年番号201905)
5	18	岩崎卓爾没1937	昭和12(1937)年5月18日に旧石垣島測候所の二代目所長の岩崎卓爾が没した日。宮城県仙台市出身の卓爾は、68歳で没するまでの40年間石垣島に住み続け、台風の最前線で気象業務に従事するかわら八重山研究に没頭し多数の著書を残すなど、八重山研究の基礎を築き、昆虫や爬虫類の新種も多く発見した。多岐にわたる報告や研究論文は学者・研究者から高く評価され、石垣島に多くの学者・研究者を招きつけた。地元住民からは「天文屋の御主前(テンブンヤウのウシユマイ)」(測候所のおじいさん)と慕われた。昭和8(1933)4月9日旧石垣島測候所構内において、島の有志らによって建てられた岩崎卓爾の胸像の除幕式が行われた。	石垣島地方気象台 岩崎卓爾について < https://www.data.jma.go.jp/ishigaki/guide/takuzi/takuzi.html > WMO百年観測所について < https://www.data.jma.go.jp/ishigaki/guide/hyaku/hyakunen.html >
5	21	雲仙岳噴火1792	雲仙岳のマグマ噴火を発端とする一連の火山災害。発生: 寛政4(1792)年5月21日。死者: 約15,000名(地震及び岩屑なだれによる)。特記事項: 強い地震と同時に眉山(当時前山)が大崩壊を起こし、有明海に流れ込み津波発生。このため島原及び対岸の肥後・天草に被害があった。「(島原大変肥後迷惑)の文言が残されている」	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/fukuoka/504_Unzendake/504_history.html > 「日本被害地震総覧 599-2012」(宇佐美龍夫著、2012年9月20日発行、東京大学出版会)P121-122
5	23	チリ地震津波1960	チリ地震津波。発生: 昭和35(1960)年5月23日。モーメントマグニチュード: 9.5。津波: 高い所で6m程度。日本における人的被害は、死者・行方不明者: 142名(沖縄3名)。特記事項: 一度避難して助かった住民が津波が引いたときに自宅に忘れ物を取りに行ったところ、次の津波で家ごと流されて被災するなど、何度か押し寄せた津波による被災があった。	内閣府防災情報のページ「災害教訓の継承に関する専門調査会報告書」 < https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunno_keishou/rep/1960_chile_jishintsunami/index.html >
5	23	口永良部島噴火1841	口永良部島噴火。発生: 天保12(1841)年5月23日、8月1日。噴火場所: 新岳。特記事項: 8月1日の噴火で、村落焼亡。死者多数。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/fukuoka/509_Kuchierabujima/509_history.html >
5	24	十勝岳噴火1926	十勝岳噴火。発生: 大正15(1926)年5月24日。被害: 死者・行方不明者144名(融雪型火山泥流による)。負傷者約200名、建物被害372棟。特記事項: 中央火口丘の北西部が破壊され、熱い岩屑なだれが積雪を溶かして大規模な泥流発生(平均速度約60km/h)「大規模な泥流」。2か所の村(上富良野・美瑛)が埋没。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/sapporo/108_Tokachi/108_history.html >
5	26	日本海中部地震1983	「昭和58年(1983年)日本海中部地震」。発生: 昭和58(1983)年5月26日。マグニチュード: 7.7。最大震度: 5(秋田県 秋田市山王など3点)。秋田県沖を震源とする大地震が発生し、強い揺れの直後、東北地方の日本海側を中心に大津波が襲いました。この地震・津波で、全国で104人の方が亡くなり、このうち100人は津波によるものでした。	秋田地方気象台HP < https://www.data.jma.go.jp/akita/data/saigai/saigai_tyubu.html >

5	31	本島本島で大雨2022	沖繩本島で大雨災害。発生:令和4(2022)年5月31日～6月1日。概況:沖繩本島地方では梅雨前線の影響で雷雨や所々で非常に激しい雨が降った。被害:床上浸水10棟(本島中南部)、床下浸水3棟(本島中南部)、土砂災害2か所(那覇市・西原町)、道路冠水約60件(糸満市で乗用車が水没(人は救出))。特記事項:西原町の小波津川や南城市の雄樋川が氾濫。沖繩本島地方に記録的短時間大雨情報発表。	沖繩気象台(気象災害報告、通年番号202204「2022年6月1日の沖繩県における大雨、強雨、雷による浸水害、強雨害、山がけ崩れ害」)
---	----	-------------	--	---

6月

月	日	記載名称	概要	備考
6	1	気象記念日	気象記念日は、明治8(1875)年6月1日に気象庁の前身である東京気象台において業務を開始したことを記念し昭和17(1942)年に制定された。平成16(2004)年6月1日にはマスコットキャラクター「はれるん」も誕生し、気象庁の「気象科学館」や各地の気象台などでの様々な広報イベントで大活躍中。	気象庁HP 気象庁の歴史 < https://www.jma.go.jp/jma/kishou/intro/gyomu/index2.html > 気象庁マスコットキャラクター「はれるん」 < https://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/harerun.html >
6	1	台風第2号災害2023	令和5年台風第2号。期間:令和5(2023)年5月31日～6月1日。概況:カリン諸島で発生した台風第2号は、5月31日には宮古島の東海上を暴風域を伴いながら北上したが、6月1日は暴風域がなくなり沖繩本島付近を通過した。観測値:最大風速SE22.3m/s(航空官署:安次嶺(那覇空港))、最大瞬間風速SSE32.9m/s(アメダス地点:糸数)、いずれの値も6月の極値を更新。被害状況:人的被害9名。	沖繩気象台(顕著気象現象速報「令和5年台風第2号について」) < https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/kencho/T2023/T2302.pdf >
6	3	雲仙岳噴火1991	「平成3年(1991年)雲仙岳噴火」。発生:平成3(1991)年6月3日。被害:死者・行方不明者43名(火砕流による)、建物被害179棟。特記事項:5月20日地獄跡火口に溶岩ドームが出現。次第に成長し24日火砕流開始。6月3日に発生した火砕流で被害が拡大。建物被害もその後発生した火砕流で被害が拡大。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/fukuoka/504_Unzendake/504_history.html >
6	8	石垣島で大雨2020	石垣島地方で大雨災害。発生:令和2(2020)年6月8日～9日。概況:梅雨前線の影響で石垣島地方で大雨となった。被害(石垣市):床上浸水4棟、床下浸水9棟、車両水没12件(10名救助)、がけ崩れ2件。特記事項:石垣島地方で記録的短時間大雨情報発表。	沖繩気象台(気象災害報告「2020年6月9日の沖繩県(石垣市及び八重山郡)における大雨 強雨 雷による浸水害 強雨害 落雷害」通年番号202006)
6	8	硫黄島噴火1959	硫黄島で噴火災害。発生:昭和34(1959)年6月8日～約1ヶ月。概況:噴火場所は硫黄島の硫黄岳(ホーイノ山)火口。北西火山で噴煙3000m、噴石、降灰、活動約1ヶ月続き、泥・硫黄が海上に流出。全島民86人は島外へ移住。	気象庁HP https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/601_Io-Torishima/601_history.html
6	10	沖繩本島で土砂災害2006	沖繩本島で長雨による土砂災害発生。発生:平成18(2006)年6月10日～6月18日。概況:梅雨前線に長雨で沖繩本島地方では平年の約2.4倍の雨量を観測した。観測値:5月23日～6月19日の雨量(平年比)は、那覇589.5mm(240%)、被害:中城村上原の村道で道路が約50メートルにわたり陥没。特記事項:那覇市首里鳥堀町では地盤沈下でマンションが傾いた。	沖繩気象台(気象災害報告、通年番号200609「2006年6月10日の沖繩県における大雨、強雨、強風による地すべり害、山がけ崩れ害、強雨、強風害」)
6	10	宮古島近海の地震1938	宮古島近海の地震。昭和13(1938)年6月10日。マグニチュード:7.2。最大震度:震度4(宮古島)、津波:1.5m。棧橋の流出などの被害発生。特記事項:地震発生後10分で平良港に津波が来襲した。	「日本被害地震総覧 599-2012」(宇佐美龍夫著、2012年9月20日発行、東京大学出版会)P322
6	15	明治三陸地震津波1896	明治三陸地震津波。発生:明治29(1896)年6月15日。マグニチュード:8.2。最大震度:2～3。津波:あり。死者:21,959名。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai-1995.html >
6	15	喜界島地震1911	喜界島地震。発生:明治44(1911)年6月15日。マグニチュード:8.0。被害:死者12名、家屋全壊422棟、半壊561棟。特記事項:特に喜界島の被害は最大で、死者1名、重軽傷者9名、住家全壊40棟、半壊533棟などであった。奄美大島鎮西村では津波により、人家過半数が浸水し、島の北海岸の秋名で漁師が海水異常に気づいたという。	「日本被害津波総覧[第2版]」(渡辺偉夫著、1985年11月25日発行、東京大学出版)P263-P264
6	16	伊江島で竜巻被害2018	伊江島で竜巻被害。発生:平成30(2018)年6月15日～16日。概況:台風第6号の影響で沖繩地方は大気の状態が非常に不安定となり、猛烈な雨をもたらすとともに、伊江島では竜巻も発生。観測値:最大日降水量312.0mm(伊是名)、6/15～16の降水量454.0mm(伊是名)。被害:負傷者2名(竜巻)、床上浸水2棟、床下浸水9棟、土砂災害(本島北部の広い範囲)、その他空港施設の建物等の被害。特記事項:藤田スケールでJEF3に該当(風速約70m/sと推定)。	沖繩気象台・気象庁観測部(現地災害調査報告「平成30年6月16日に沖繩県国頭郡伊江村で発生した突風について」平成30年10月11日) 沖繩気象台(気象災害報告 通年番号201806「2018年6月16日の沖繩県における強風 竜巻 大雨による強風害 竜巻害 浸水害」) < https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/kencho/T2018/20181011_toppu_houkoku.pdf >
6	18	大阪北部地震2018	大阪北部地震。発生:平成30(2018)年6月18日。マグニチュード:6.1。最大震度:6弱(大阪府 5市区)。被害:死者6名、負傷者462名、住家全壊21棟、住家半壊483棟。	気象庁HP < https://www.jma.go.jp/jma/menu/20180618_oosaka_jishin_menu.html > <消防庁被害情報一覧のページ> https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/190820osakafuhokubujisinn32.pdf
6	22	浅間山噴火1721	浅間山噴火。発生:享保6(1721)年6月22日。被害:死者15名、重症者1名。特記事項:噴石が登山者へ降りかかった。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/volcano_disaster.htm >
6	24	阿蘇山噴火1958	阿蘇山噴火。発生:昭和33(1958)年6月24日。被害:死者12名(噴石による)、負傷者28名。特記事項:噴石は火口の西1.2kmの阿蘇山測候所に達した。山腹一帯に多量の降灰砂。7、9～12月にも噴石活動。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/306_Asamayama/306_history.html >
6	25	九州北部で大雨1953	梅雨前線の影響で九州北部で大雨災害。発生:昭和28(1953)年6月23日～30日。概況:低気圧を伴う梅雨前線の影響で西日本を中心に大雨となった。観測値:日降水量411.9mm(熊本)、6/23～6/30までの総降水量718.7mm(大分)。被害:死者748名、行方不明者265名、負傷者2,720名、住家全壊5,699棟、半壊11,671棟、床上浸水199,979棟、床下浸水254,664棟。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/1953/19530623/19530623.html >

6	28	平成30年7月豪雨	「平成30年7月豪雨」。発生:平成30(2018)年6月28日～7月8日。概況:前線や台風第7号の影響で西日本を中心に記録的な大雨となった。観測値:6/28～7/8までの総降水量1800mm以上(四国地方)、1200mm以上(東海地方)。被害:死者224名、行方不明者8名、負傷者459名、住家全壊6,758棟、半壊10,878棟、床上浸水8,567棟、床下浸水21,913棟。特記事項:1府10県に特別警報を発表。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/rep/2018/20180713/20180713.html >
6	28	福井地震1948	福井地震。発生:昭和23(1948)年6月28日。マグニチュード:7.1。最大震度:6(福井県 福井市豊島)。死者:3,769名。特記事項:被害が集中的に発生する都市直下型地震。震度7を創設するきっかけとなった地震。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai-1995.html > 内閣府報告書(1948福井地震) < https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1948_fukui_jishin/index.html >
6	29	沖縄本島で大雨2021	沖縄本島で大雨。発生:令和3(2021)年6月28日～7月1日。概況:梅雨前線に流れ込む湿った空気の影響で、沖縄本島地方で大雨となった。29日未明には線状降水帯が発生した。観測値:最大1時間降水量84.0mm(北原)、最大日降水量268.0mm(粟国)、6/28～7/1の総降水量481.0mm(粟国)。被害:土砂災害44か所、道路損壊7か所、床上浸水3棟、床下浸水3棟など。特記事項:沖縄気象台は「顕著な大雨に関する気象情報」を全国で初めて発表した。	沖縄気象台(気象災害報告 通年番号202118「2021年6月30日の沖縄県における大雨 強雨 雷による浸水害 強雨害 山がけ崩れ害」)

7月

月	日	記載名称	概要	備考
7	1	沖縄気象台創立記念日	明治23(1890)年7月1日、沖縄県立那覇二等測候所として沖縄における気象業務が開始。大正14(1925)年に中央気象台附属沖縄測候所と改称。昭和14(1939)年に沖縄地方気象台と改称。昭和20(1945)年の沖縄戦において施設に大きな被害を受け、気象台としての機能を喪失し業務停止。昭和25(1950)年に米軍統治下で琉球気象局として再出発。昭和47(1972)年の本土復帰を機に沖縄気象台と改称し現在に至る。	沖縄気象台HP 気象台の沿革 < https://www.data.jma.go.jp/okinawa/kansyo/about/history.html >
7	3	令和2年7月豪雨	「令和2年7月豪雨」。期間:令和2(2020)年7月3日～31日。概況:前線の影響で西日本から東日本で大雨となり、九州では記録的な大雨となった。観測値:7月3日から31日までの総降水量は、長野県や高知県の多い所で2,000mmを超えたところがあった。人的被害・物的被害:多く発生。特記事項:熊本県、鹿児島県、福岡県、佐賀県、長崎県、岐阜県、長野県の7県に大雨特別警報発表。埼玉県三郷市で竜巻が発生するなど突風被害も発生。気象庁は「令和2年7月豪雨」と名称を定めた。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/rep/2020/20200811/20200811.html >
7	5	平成29年7月九州北部豪雨	「平成29年7月九州北部豪雨」。期間:平成29(2017)年6月30日～7月10日。概況:梅雨前線や台風第3号の影響で西日本から東日本を中心に局地的に猛烈な雨が降り大雨となった。観測値:最大1時間降水量129.5mm(福岡県朝倉市朝倉)、最大24時間降水量545.5mm(福岡県朝倉市朝倉)、6月30日から7月10日までの総降水量660.0mm(福岡県朝倉市朝倉)。死者:39名。行方不明者:4名。負傷者:35名。住家全壊:309棟。住家半壊:1,103棟。床上浸水:202棟。床下浸水:1,706棟。特記事項:気象庁は「平成29年7月九州北部豪雨」と名称を定めた。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/rep/2017/20170711/20170711.html >
7	7	沖縄で特別警報2014	台風第8号の接近に伴い特別警報を発表。期間:平成26(2014)年7月7日～9日。概況:台風第8号の接近で記録的な暴風や高波、高潮、大雨のおそれがあるとして沖縄本島地方と宮古島地方に対し特別警報を発表。観測値:最大風速33.1m/s(那覇)、最大瞬間風速:50.2m/s(那覇)、最大1時間降水量79.0mm(那覇)、7/7-7/9の総降水量457.5mm(名護)、最低海面気圧964.8hPa(宮古島)。被害(沖縄県内):負傷者36名、住家全壊3棟、住家半壊2棟、床上浸水89棟、床下浸水90棟、土砂災害91箇所、河川氾濫6箇所。特記事項:沖縄本島地方と宮古島地方に特別警報。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/rep/2014/20140706/20140706.html > 沖縄気象台(「沖縄地方顕著現象報告第43号平成26年1月～12月(2014年)」平成27年3月) < https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/kencho/2014/09.pdf >
7	11	平成24年7月九州北部豪雨	「平成24年7月九州北部豪雨」。期間:平成24(2012)年7月11日～14日。概況:梅雨前線の影響で九州北部地方を中心に大雨となった。観測値:11日から14日までの4日間の降水量が500mmを超えた観測所が計5地点あった。被害:死者30名、行方不明者3名、負傷者34名、住家全壊276棟、住家半壊2,306棟、床上浸水2,574棟、床下浸水8,409棟。特記事項:気象庁は「平成24年7月九州北部豪雨」と名称を定めた。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/rep/2012/20120711/20120711.html >
7	12	北海道南西沖地震1993	「平成5年(1993年)北海道南西沖地震」。発生:平成5(1993)年7月12日。マグニチュード:7.8。最大震度:5(北海道 寿都町など4町)。津波:北海道、東北地方の日本海側では大きな津波が襲来した。とくに震源地近くの奥尻島では、高さが最大21m(藻内地区)の津波が、地震発生直後の数分間で襲来したと考えられている。被害:北海道で死者・行方不明者229名。特記事項:被害が最も大きかった奥尻町の震度は、地震計が設置されていないため計測されていない。	内閣府防災情報のページ < https://www.bousai.go.jp/kaigirep/houkokusho/hukkuousesaku/saigaitaiou/output_html_1/case199301.html > 札幌管区気象台 < https://www.jma-net.go.jp/sapporo/jishin/nanseioki.html >
7	12	三宅島噴火1940	三宅島噴火。発生:昭和15(1940)年7月12日。死者:11名(火山弾・溶岩流などによる)。特記事項:噴火が山腹の居住域から始まったため、当時の死傷者数は20世紀以降の噴火の中で最悪のものとなった。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/volcano_disaster.htm > 気象庁 1940(昭和15)年7月12日噴火 < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/rovdv/Miyakejima_rovdv/miyakejima_1940.html >
7	15	磐梯山噴火1888	磐梯山噴火。発生:明治21(1888)年7月15日。被害:死者477名、負傷者28名。特記事項:明治以降の日本における最大規模の火山災害。山体崩壊による大量の岩屑(がんせつ)なだれは、多数の住民を犠牲にするとともに、川をせき止め多くの湖沼を形成した。山体崩壊による堆積土砂により、その後、長瀬川では洪水が頻発した。	内閣府防災情報のページ < https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1888_bandai_san_funka/index.html >

7	16	新潟県中越沖地震2007	「平成19年(2007年)新潟県中越沖地震」。発生:平成19(2007)年7月16日。マグニチュード:6.8。最大震度:6強(新潟県と長野県)。津波:あり。被害:死者15名、負傷者2,346名、住家全壊1,331棟、住家半壊5,710棟。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai1996-new.html#higai2006 > 地震調査委員会資料 < https://www.jishin.go.jp/main/chousa/07aug_chuetsu_oki/index.htm >
7	17	安達太良山噴火1900	安達太良山噴火。発生:明治33(1900)年7月17日。被害:死者72名、負傷者10名。特記事項:中規模の水蒸気噴火。火口の硫黄採掘所全壊。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/sendai/214_Adatarayama/214_history.html >
7	18	南紀豪雨1953	南紀豪雨。期間:昭和28(1953)年7月16日～25日。概況:関東から九州にかけて停滞した梅雨前線の影響で大雨となった。観測値:日降水量200mm以上(九州～東北地方)。7/16～25の総降水量700mm以上の所あり。被害:死者713名、行方不明者411名、負傷者5,819名、住家全壊7,704棟、住家半壊2,125棟、床上浸水20,277棟、床下浸水66,202棟。特記事項:この豪雨により有田川や日高川などが決壊し、和歌山県有田市、御坊市を始め多くの地域が濁流にのまれ、和歌山県内だけで1,000名を超える死者・行方不明者が出た。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/rep/1953/19530716/19530716.html >
7	23	昭和57年7月豪雨	「昭和57年7月豪雨」。期間:昭和57(1982)年7月23日～25日。概況:低気圧が相次いで西日本を通過し梅雨前線の活動が活発となり長崎県を中心に豪雨となった。観測値:1時間降水量100mm超(長崎)、3時間降水量313.0mm(長崎)、日降水量448.0mm(長崎)。被害:死者・行方不明者299名、負傷者16名、住家全壊584棟、住家半壊954棟、床上浸水17,909棟、床下浸水19,197棟。特記事項:長崎市内を中心に土石流やがけ崩れが発生。気象庁は「昭和57年7月豪雨」と名称を定めた。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/rep/1982/19820701/19820701.html > 内閣府防災情報のページ < https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1982_nagasaki_gouu/index.html >
7	25	諫早豪雨1957	諫早豪雨。期間:昭和32(1957)年7月25日～28日。概況:低気圧を伴う梅雨前線が九州で活発化し長崎、熊本、佐賀県で大雨となった。観測値:24時間降水量1,109mm(長崎県瑞穂町西郷)。被害:死者586名、行方不明者136名、負傷者3,860名、住家全壊1,564棟、住家半壊2,802棟、床上浸水24,046棟、床下浸水48,519棟。特記事項:長崎県諫早市では、市内を流れる本明川が2度にわたり氾濫、2回目の氾濫では上流で発生した大規模な土石流による大量の土砂と流木が市内を襲い、諫早市だけで500名を超える死者が出た。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/rep/1957/19570725/19570725.html >
7	31	台風第6号災害2023	令和5年台風第6号。期間:令和5(2023)年7月31日～8月7日。概況:フィリピンの東で発生した台風第6号は、7月31日には大型で非常に強い勢力へ発達しながら北上した。その後、大東島地方、沖縄本島地方、宮古島地方、石垣島地方を暴風域に巻き込みながら東シナ海でほぼ停滞した。台風は8月3日から4日にかけて東シナ海で停滞し、その後東へ進み沖縄本島地方と大東島地方が再び暴風域に入り、長期間にわたり台風の影響を受けた。観測値:最大風速E35.0m/s(アメダス地点:糸数)、最大瞬間風速SE50.4m/s(アメダス地点:渡嘉敷)、日最大降水量291.0mm(8月2日:アメダス地点:読谷)いずれの値も8月の極値を更新。また、南城市の沖縄駿潮場において過去最高潮位を観測した。特記事項:沖縄本島地方の多くの市町村へ土砂災害警戒情報発表。6日、沖縄本島地方で線状降水帯が発生した。被害概要:人的被害69名(死者1人、重傷3人、軽傷65人)、家屋被害21戸、停電最大215,800戸など。	沖縄気象台(顕著気象現象速報「令和5年台風第6号について」) < https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/kencho/T2023/T2306.pdf >
7	31	北海道駒ヶ岳噴火1640	北海道駒ヶ岳噴火。発生:寛永17(1640)年7月31日。被害:死者700余名。特記事項:大規模なマグマ噴火。山鳴りが激しく、屋頂山頂部が一部崩壊し岩屑(がんせつ)なだれが大沼と内浦湾になだれ込み津波発生、死者は沿岸での溺死者。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/sapporo/113_Komagatake/113_history.html >

8月

月	日	記載名称	概要	備考
8	5	浅間山噴火1783	浅間山噴火(マグマ噴火)。発生:天明3(1783)年8月5日。被害:死者1,151名、流失家屋1,061棟。特記事項:8月5日午前大爆発とともに鎌原(かんばら)火砕流・岩屑(がんせつ)なだれが発生。北麓に流下、下流では泥流に変化して吾妻川を塞ぎ、次いで決壊、多量の水が利根川に出て流域の村落を流失した。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/306_Asamayama/306_history.html >
8	6	台風第9号による大雨2011	台風第9号による大雨。期間:平成23(2011)年8月3日～6日。概況:台風第9号が3日に南大東島の南東海上を西向きに進み5日沖縄本島に最も接近し東シナ海へ進んだ。台風の動きが遅く沖縄本島地方では長時間暴風域内にあった。観測値:最大風速27.9m/s(那覇)、最大瞬間風速47.3m/s(名護)、日最大雨量377.5mm(名護)。被害:負傷者42名、住家被害28棟、床上床下浸水7棟、山がけ崩れ・地すべり50か所。特記事項:高潮により棧橋が海水に浸かる被害。	沖縄気象台(「沖縄地方顕著現象報告第40号平成23年1月～12月(2011年)」平成24年3月)
8	7	伊豆鳥島噴火1902	伊豆鳥島(水蒸気噴火)。発生:明治35(1902)年8月7日。死者:125名(全島民)。特記事項:大噴火8月上旬(7～9日のいつか)爆発が起こり、月末まで継続。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/325_Izu-Torishima/325_history.html >
8	11	安里川・大井川氾濫2007	沖縄本島で大雨。発生:平成19(2007)年8月11日。概況:東シナ海の熱帯低気圧と南からの湿った空気の影響で沖縄本島地方では大気の状態が不安定となった。観測値:最大1時間降水量84.5mm(那覇)、62.5mm(名護)、最大24時間降水量431.0mm(那覇、8月の1位を更新)、266.5mm(名護)。被害:住家半壊1棟、床上浸水104棟、床下浸水299棟、車両被害8台、山崖崩れ45箇所。特記事項:安里川の氾濫で那覇市の国際通りで洪水が発生。	沖縄気象台(「沖縄地方顕著現象報告(第36号)平成19年1月～12月(2007年)」平成20年3月)

8	13	福徳岡ノ場の海底噴火2021	福徳岡ノ場の海底噴火。発生:令和3(2021)年8月13日から15日。概況:発生期間において福徳岡ノ場の海底噴火を確認。噴煙高度は最大で約16,000m以上。軽石等浮遊物を噴出し、漂流。10月4日に沖縄県大東諸島で目撃されたものをはじめ、沖縄県内の沿岸に軽石が漂着した。被害:漁船や船舶の航行困難等の被害。特記事項:漁港やビーチでの軽石の除去作業等を余儀なくされた。	気象庁 HP< https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/331_Fukutoku-Oka-no-Ba/331_history.html >
8	14	南山城の大雨1953	南山城の大雨。発生:昭和28(1953)年8月11日～15日。概況:寒冷前線が南下し14日に東北地方南部から北陸、近畿北部に停滞し大雨となった。観測値:14日～15日総雨量400mm以上(京都府和東湯船)。被害:死者290名、行方不明者140名、負傷者994名、住家全壊893棟、半壊:765棟、床上浸水6,222棟、床下浸水18,894棟。特記事項:京都府では、木津川上流で土石流、井手町での大正池の堤防決壊が発生。滋賀県多羅尾村では山崩れ発生。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/repport/1953/19530811/19530811.html >
8	17	みどり丸沈没事故1963	みどり丸沈没事故。発生:昭和38(1963)年8月17日。概況:那覇市泊港を久米島向け出航した定期貨物船「みどり丸」が、泊港外の北西方10キロにある環礁(俗称チビシ)の神山島付近で沈没。死者:86名(乗船者228名中)。行方不明者:26名。特記事項:遭難現場は三角波の荒い難所で、さらに海上では波が高く、安全のため航路を変えたが横波を受け、僅か10分で沈没。沖縄海難史上最大の事故となった。	「みどり丸遭難誌 三十三回忌を終えて」(みどり丸遭難犠牲者慰霊の塔建立期成会、1997年4月30日発行) 沖縄県公文書館HP < https://www.archives.pref.okinawa.jp/news/that_day/4601 >
8	19	ガープ川災害2009	那覇市樋川のガープ川事故。発生:平成21(2009)年8月19日。概況:沖縄本島地方は高気圧の範囲内でおおむね晴れていたが、大気の状態が不安定で雷雨となるところがあった。観測値:最大1時間降水量7.0mm(那覇市樋川)、48.0mm(那覇空港)。死者:4名(河道内で発生した鉄砲水で作業員6名のうち5名が流され1名は下流で救助された)。特記事項:地域的に雨の降り方に差があった。	沖縄気象台(「平成21年8月19日の気象状況～ガープ川水難事故関連～」) 沖縄気象台(「沖縄地方顕著現象報告」第38号平成21年1月～12月(2009年)P19)
8	20	伊良部島で竜巻被害1994	伊良部町(現宮古島市)で竜巻被害。発生:平成6(1994)年8月20日。概況:台風第16号の北側の発達した積乱雲から竜巻が発生し伊良部島で被害発生。負傷者:14名。住家被害:35棟。その他の被害:電柱倒壊33本、車両被害:3台など。特記事項:藤田スケールF2。複数の竜巻(漏斗雲)が発生した可能性がある。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/1994082001/list.html >
8	26	台風第15号災害2012	台風第15号による土砂災害。期間:平成24(2012)年8月24日～27日。概況:台風第15号が大型で非常に強い勢力でゆっくりと26日に沖縄本島を通過し東シナ海へ進んだ。観測値:最大風速27.3m/s(伊是名)、最大瞬間風速41.5m/s(伊是名)、25日から27日までの総降水量550.5mm(国頭村比地)。重軽傷者:5名。特記事項:大宜味村で土砂災害7か所など。	沖縄気象台(顕著気象現象速報「平成24年台風第15号について」平成24年8月8日)
8	29	渡島大島噴火1741	渡島大島の噴火(マグマ噴火)に伴う一連の火山災害。発生:寛保(1741)年8月29日。死者:1,467名(岩屑など津波による)。流出家屋:791棟。特記事項:29日に大津波が発生。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/sapporo/115_Osimaosima/115_history.html >
8	29	沖縄本島近海の地震1909	沖縄本島近海の地震。発生:明治42(1909)年8月29日。マグニチュード:6.2。震度:強震(那覇、震度5相当)。死者2名。負傷者:13名。家屋全半壊:16棟。	「日本被害地震総覧 599-2012」(宇佐美龍夫著、2012年9月20日発行、東京大学出版会)P262

9月

月	日	記載名称	概要	備考
9	1	関東大震災1923	関東地震(関東大震災)。発生:大正12(1923)年9月1日。マグニチュード:7.9。最大震度:7(東京都 東京など5点)。津波:相模湾周辺と房総半島の南端では最大高さ12m(熱海)、9m(館山)の津波起こったが、東海地震の津波災害の経験が生かされ、人的被害が最小限に食い止められた地域もあった。死者・行方不明者:10万5千余。特記事項:1960年(昭和35年)に9月1日が「防災の日」に制定。定期的に台風災害も含めて、広く災害に対して心構えを高めるため、各地で防災訓練が開催されている。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai-1995.html > 内閣府防災情報のページ < https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1923_kanto_daishinsai/index.html >
9	1	石垣島近海の地震1898	石垣島東方沖地震。発生:明治31(1898)年9月1日。マグニチュード:7.0。被害:家屋半壊2棟(石垣・宮古両島)、堤防損壊1、道路破壊16か所、石垣の崩壊1,124か所、山崩れ7か所の被害があった。	「日本被害地震総覧 599-2012」(宇佐美龍夫著、2012年9月20日発行、東京大学出版会)P245
9	5	第2宮古島台風1966	第2宮古島台風(コラ)。期間:昭和41(1966)年9月4日～6日。概況:台風第18号が5日宮古島に達し7日には中国大陸に上陸した。観測値:最大風速60.8m/s(宮古島)、最大瞬間風速85.3m/s(宮古島、日本の観測史上1位)。被害:負傷者41名、住家損壊7,765棟、浸水30棟。特記事項:宮古島では半数以上の住家が損壊。さとうきびの7割が収穫不能となるなどの甚大な被害があった。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/repport/1966/19660904/19660904.html >
9	6	北海道胆振東部地震2018	「平成30年北海道胆振東部地震」。発生:平成30(2018)年9月6日。マグニチュード:6.7。最大震度:7(北海道厚真町)。被害:死者42名、負傷者762名、住家全壊462棟、住家半壊1,570棟。特記事項:道内全域において最大約295万戸に停電が発生し、日本で初めてとなるエリア全域に及ぶ大規模停電(ブラックアウト)が発生。	気象庁「災害時地震報告平成30年北海道胆振東部地震」 < https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/saigaiji/saigaiji_201901.pdf > 内閣府「2018年(平成30年)北海道胆振東部地震」 < https://www.bousai.go.jp/kaigirep/houkokusho/hukkuosesaku/saigaitaiou/output_html_1/pdf/201802.pdf >

9	9	関東・東北豪雨2015	「平成27年9月関東・東北豪雨」。期間：平成27(2015)年9月9日～11日。概況：台風第18号や前線の影響で西日本から北日本の広い範囲で大雨となり、多数の線状降水帯が発生するなど。関東地方と東北地方で記録的な大雨となった。観測値：9月7日～11日までの総雨量が、関東地方で600mm、東北地方で500mm。死者：8名(宮城県・茨城県・栃木県)。損壊家屋：4,000棟以上。浸水家屋：12,000棟以上。特記事項：気象庁は「平成27年9月関東・東北豪雨」と命名した。	気象庁(災害時自然現象報告2015年第1号「平成27年関東・東北豪雨及び平成27年台風第18号による大雨等」平成27年12月4日) < https://www.jma.go.jp/kishou/books/saigaiji/saigaiji_2015/saigaiji_201501.pdf >
9	10	鳥取地震1943	鳥取地震。発生：昭和18(1943)年9月10日。マグニチュード：7.2。最大震度：6(鳥取県 鳥取市吉方)。被害：死者1,083名、負傷者3,259名、家屋全壊7,485棟。特記事項：最大震度6は当時の最大震度。液状化による噴砂や地割れが発生。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai-1995.html > 鳥取地方気象台HP < https://www.data.jma.go.jp/tottori/bosai/jishin-tsunami/feature.html >
9	11	台風第14号マエミー2003	平成15年台風第14号(マエミー)。期間：平成15(2003)年9月10日～14日。概況：台風第14号が猛烈な勢力で宮古島を通過し、東シナ海から朝鮮半島、日本海へ進んだ。観測値：最大風速38.4m/s(宮古島)、最大瞬間風速74.1m/s(同左)、最低気圧912.0hPa(同左、全国歴代4位)。被害：死者3名(沖繩1)、負傷者110名(沖繩97)、住家全壊18棟(沖繩)、半壊87棟(沖繩86)、床上浸水72棟(沖繩3)、床下浸水303棟(沖繩15)。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/2003/20030910/20030910.html > 内閣府資料 < https://www.bousai.go.jp/updates/pdf/2004_0312taifuu1000.pdf >
9	15	カスリーン台風1947	カスリーン台風。期間：昭和22(1947)年9月14日～15日。概況：カスリーン台風が、紀伊半島の南海上を北上し、進路を北東に変えながら15日に房総半島をかすめて三陸沖へ進んだ。観測値：9/14～9/15の期間降水量609.5mm(埼玉秩父市)。最大降水量519.7mm(同左)、最大1時間降水量78.0mm(同左)。被害：死者1,077名、行方不明者853名、負傷者1,547名、住家損壊9,298棟、浸水384,743棟。特記事項：台風は日本に接近し衰弱したが日本付近に停滞していた前線が活発化し関東地方と東北地方で大雨となった。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/1947/19470914/19470914.html >
9	15	宮古島台風1959	宮古島台風(サラ)。期間：昭和34(1959)年9月15日～18日。概況：台風第14号が非常に強い勢力で15日に宮古島を通過し、その後、対馬海峡を通過し日本海へ進んだ。観測値：最低気圧908.1hPa(宮古島)、最大風速53.0m/s(同左)、最大瞬間風速64.8m/s(同左)。被害：死者47名、行方不明者52名、負傷者509名、住家損壊16,632棟、浸水14,360棟。特記事項：宮古島では7割の住家が損壊した。長崎県や北海道を中心に波浪や高潮による浸水害や船舶被害が大きかった。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/1959/19590915/19590915.html >
9	16	台風第16号高潮災害2012	平成24年台風第16号による高潮災害。期間：平成24(2012)年9月15日～19日。概況：台風第16号が16日に大型で非常に強い勢力を保ったまま沖縄本島付近を通過し、九州の西海上を北へ進んだ。観測値：最大風速42.1m/s(与論島)、40.5m/s(うらま市宮城島)、最大瞬間風速57.5m/s(同左)、最高潮位193cm(南城市)。沖縄での被害として：負傷者2名、床上浸水145件、床下浸水406件、住家一部損壊7件、道路破損4件など。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/2012/20120915/20120915.html > 沖縄気象台(「速報」平成24年台風第16号について(第2報)平成24年9月21日) < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/2012/20120915/pdf/2012_4_okinawa_1.pdf >
9	16	本部港高波災害2006	平成18年台風第13号被害。期間：平成18(2006)年9月15日～20日。概況：16日に石垣島付近を通過後、沖縄本島の西海上を北東へ進み、17日に長崎県に上陸後、日本海へ進んだ。観測値：最大瞬間風速69.9m/s(西表島)、最大風速46m/s(長崎県長崎市野母崎)。当時の被害としては：死者9名、行方不明者1名、負傷者448名、住家全壊159棟、半壊514棟、床上浸水189棟、床下浸水1,177棟。	気象庁HP 沖縄気象台(「平成18年9月16日から17日にかけて、沖縄県本部港及び名護湾沿岸で発生した高波による災害について」平成18年10月27日) < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/2006/20060915/20060915.html >
9	17	枕崎台風1945	枕崎台風。概況：台風第16号が9月17日に鹿児島県枕崎市に上陸後北東に進み、九州から東北地方を通過した後三陸沖へ進んだ。期間：昭和20(1945)年9月17～18日。観測値：最低海面気圧916.1hPa(鹿児島県枕崎市)、最大風速51.3m/s(宮崎県細島：海上保安庁灯台)、最大瞬間風速75.5m/s(同左)、期間降水量200mm以上(九州、中国地方)。被害：死者2,473名、行方不明者1,283名、負傷者2,452名、住家損壊89,839棟、浸水273,888棟。特記事項：終戦後間もないことで気象情報も少なかったことや防災体制も十分でなかったため各地で大きな被害が発生。特に広島県では2,000名を超える死者・行方不明者が出た。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/1945/19450917/19450917.html >
9	23	第3宮古島台風1968	第3宮古島台風(デラ)。期間：昭和43(1968)年9月22日～27日。概況：台風第16号が22日に宮古島付近を通過し、24日鹿児島県串木野市付近に上陸後、25日九州付近で熱帯低気圧に変化。観測値：54.3m/s(宮古島)、最大瞬間風速79.8m/s(宮古島)。被害：死者11名、負傷者80名、住家損壊5,715棟、浸水15,322棟。特記事項：宮古島では暴風により住家や農作物に大きな被害。鹿児島県では塩風や高潮による被害が大きかった。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/1968/19680922/19680922.html >
9	24	豊橋市竜巻1999	愛知県豊橋市で発生した竜巻。発生：平成11(1999)年9月24日。概況：台風の外側の発達した積乱雲で竜巻が発生した。被害：負傷者415名、住家被害2,329棟、回線障害460件、停電7,200戸。特記事項：多重渦の竜巻。藤田スケールはF3で日本最大級。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/1999092403/list.html >
9	24	ベヨネース列岩海底噴火1952	ベヨネース列岩海底噴火(マグマ水蒸気噴火)。発生：昭和27(1952)年9月24日。特記事項：海底噴火(明神礁)の調査中であった第5海洋丸(海上保安庁の測量船)遭難し31名全員殉職。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/323_BeyonesuRocks/323_history.html > 海上保安庁海洋情報部 < https://www1.kaiho.mlit.go.jp/kaiikiDB/kaiyo14-2.htm >

9	25	北海道駒ヶ岳噴火1856	北海道駒ヶ岳噴火(マグマ噴火)。発生:安政3(1856)年9月25日。被害:死者19~27名(噴石、火砕流による)、負傷者多数、家屋被害17家屋が焼失。特記事項:安政火口生成。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/sapporo/113_Komagatake/113_history.html >
9	26	洞爺丸台風1954	洞爺丸台風。期間:昭和29(1954)年9月24日~27日。概況:26日鹿児島湾から大隅半島北部に上陸し発達しながら北海道寿都町沖を通過。観測値:西日本や東北、北海道の各地で30m/s以上の暴風。被害:死者・行方不明者1,761名、負傷者1,601名、住家全壊8,396棟、住家半壊21,771棟、床上浸水17,569棟、床下浸水85,964棟。特記事項:函館港から出港した洞爺丸を始め、5隻の青函連絡船が暴風と高波で遭難し、洞爺丸の乗員乗客1,139名が死亡するなどの大惨事となった。北海道岩内町では3,300戸が焼失する大火が発生。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/rep/1954/19540924/19540924.html >
9	26	狩野川台風1958	狩野川台風。期間:昭和33(1958)年9月26日~28日。概況:台風第22号が26日静岡県伊豆半島をかすめ、27日東京などを通過し三陸沖を北上した。被害:死者888名、行方不明者381名、負傷者1,138名、住家全壊2,118棟、半壊2,175棟。特記事項:関東の南海上にあった前線が活発化しながら北上し、東海地方や関東地方で大雨となった。集中豪雨で狩野川が氾濫し各地に水害をもたらした。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/rep/1958/19580926/19580926.html >
9	26	伊勢湾台風1959	伊勢湾台風。期間:昭和34(1959)年9月26日~27日。概況:26日に和歌山県潮岬の西に上陸した台風第15号がその後本州を縦断、東北地方北部を通過して太平洋側へ抜けた。観測値:最大風速45.4m/s(愛知県渥美市)、最大瞬間風速55.3m/s(愛知県渥美市)。被害:死者・行方不明者5,098名、負傷者38,921名、住家全壊40,838棟、半壊113,052棟、床上浸水157,858棟、床下浸水205,753棟。特記事項:高潮により短時間のうちに大規模な浸水が起り、死者行方不明者が3,300名以上に達した。この台風を教訓に昭和36(1961)年に災害対策基本法が定められた。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/rep/1959/19590926/19590926.html > 内閣府防災白書 < https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/pdf/r5_tokushu1_1.pdf >
9	26	十勝沖地震2003	「平成15年(2003年)十勝沖地震」。発生:平成15(2003)年9月26日。マグニチュード:8.0。最大震度:6弱(北海道 釧路町ほか8町村)。津波:検潮所2.5m(広尾町十勝港)、遡上高4.0m(えりも町百人浜)など、北海道から東北地方にかけての太平洋沿岸で津波を観測。被害:死者1名、行方不明者1名、負傷者849名、住宅全壊1,276棟、住宅半壊368棟など。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai1996-new.html#higai1996 > 内閣府防災情報のページ < https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h16/bousai2004/html/honmon/hm120307.htm >
9	27	御嶽山噴火2014	「平成26年御嶽山噴火」(水蒸気噴火)。発生:平成26(2014)年9月27日。死者・行方不明者:63名(噴石等による)。特記事項:噴煙高度は火口縁上約7,000mと推定。大きな噴石が火口列から1km程度の範囲に飛散。火砕流が火口列から南西方向に約2.5km、北西方向に約1.5kmまで流下。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/312_Ontakesan/312_history.html >
9	27	石垣島北西沖の地震1947	石垣島北西沖の地震。発生:昭和22(1947)年9月27日。マグニチュード:7.4。死者:5名。特記事項:石垣港コンクリート棧橋に亀裂。西表島で瓦の落下や地割れ、落石などの被害。	「日本被害地震総覧 599-2012」(宇佐美龍夫著、2012年9月20日発行、東京大学出版会)P346
9	28	台風第21号強風害2015	与那国島で台風第21号による強風害。期間:平成27(2015)年9月28日。観測値:最大風速54.6m/s(与那国島)、最大瞬間風速81.1m/s(与那国島)。被害:住家全壊10棟、半壊27棟。農業被害1億7130万円(沖縄県全体)。特記事項:与那国島の最大瞬間風速81.1m/sは、第2宮古島台風(85.3m/s)に次ぐ沖縄県内2位の記録。災害救助法が適用された。	沖縄気象台(沖縄地方顕著現象報告(第44号)2015) < https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/kencho/2015/11.pdf >
9	29	台風第24号災害2018	平成30年台風第24号。期間:平成30(2018)年9月29日~30日。概況:大型で非常に強い勢力で沖縄本島地方に最も接近した。観測値:最大風速38.4m/s(慶良間空港)、最大瞬間風速56.2m/s(南城市糸数)、中城湾港の潮位が標高213cm。負傷者:40名。特記事項:沖縄本島の一部の地域では高潮による浸水害や冠水が発生。9月28日に名護市で突風被害が発生。県内250,690戸で停電。	沖縄気象台HP < https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/kencho/T2018/T1824.pdf >

10月

月	日	記載名称	概要	備考
10	3	沖縄本島で特別警報2016	平成28年台風第18号に伴い特別警報発表。期間:平成28(2016)年10月3日~4日。概況:猛烈な台風第18号が特別警報級で久米島にかなり接近しながら通過し北上。観測値:最大風速48.1m/s(北原)。最大瞬間風速:59.7m/s(北原)。被害:強風で窓ガラスが破損2件、人的被害なし。特記事項:沖縄本島地方に台風を要因とする特別警報。	沖縄気象台HP < https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/kencho/T2016/T1618.pdf >
10	3	マリアナ海域漁船遭難1965	昭和40年台風第29号で多数の漁船が沈没。発生:昭和40(1965)年10月3日。概況:台風の進路を避けてマリアナ諸島アグリガ島に避避していた日本の多数の漁船が、予想に反して接近した台風第29号の影響を受け、沈没6隻、1隻が陸に打ち上げられて大破沈没。被害:死者・行方不明者209人。	国土交通省 海難審判所 < https://www.mlit.go.jp/jmat/monoshiri/judai/40s/40s_marianakaii.htm >
10	9	阿久根台風1945	阿久根台風。期間:昭和20(1945)年10月9日~13日。概況:台風第20号が10日14時鹿児島県阿久根市付近に上陸。観測値:最大瞬間風速51.6m/s、期間降水量200~300mm。被害:死者377名、行方不明者74名、負傷者202名、住家損壊6,181棟、浸水174,146棟。特記事項:兵庫県では特に200名を超える死者が出た。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/rep/1945/19451009/19451009.html >

10	12	令和元年東日本台風2019	「令和元年東日本台風」(台風第19号による被害)。期間:令和元年(2019)年10月10日~13日。概況:台風第19号が大型で強い勢力で伊豆半島に上陸し、関東を通過した。被害:死者・行方不明者107名、住家全半壊等33,332棟、住家浸水70,341棟、床上・床下浸水31,031棟。特記事項:極めて広範囲に渡り河川の氾濫やがけ崩れ等が発生。1都12県に大雨特別警報発表。	気象庁HP(令和元年東日本台風(台風第19号)による大雨、暴風等) < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/2019/20191012/20191012.html > 内閣府(令和元年台風第19号等に係る被害状況等について) < https://www.bousai.go.jp/updates/r1typhoon19/pdf/r1typhoon19_45.pdf >
10	14	西表島群発地震1992	西表島群発地震。発生:平成4(1992)年10月14日。マグニチュード:4.5。最大震度:5。特記事項:西表島群発地震(1991.1~1994.4)にて初めて震度5を観測。1994年4月までに震度5を7回、震度4を35回観測。マグニチュード最大はM5.2であった。1958年3月11日の石垣島北東沖の地震(マグニチュード7.2)以来の震度5の観測。	地震予知連絡会 < https://cais.gsi.go.jp/YOCHIREN/report/kaihou49/06_10.pdf >
10	17	台風シャーロット1959	1959年台風第18号「シャーロット」。発生:昭和34(1959)年10月17日。概況:台風第18号が北上する中、沖縄付近にあった秋雨前線を刺激し大雨となり、各地で水害による山崩れが続発した。被害:死者46名、全半壊家屋442戸。	琉球気象台(異常気象報告No2~No6、1959年12月)
10	18	奄美大島近海の地震1995	奄美大島近海の地震。発生:平成7(1995)年10月18日。マグニチュード:6.9。最大震度:5(喜界島)。津波:九州から伊豆大島までの各地で12~24cmの津波を観測したが、その後の現地調査では鹿児島県中之島で35cmであった。被害:軽傷者1名、がけ崩れ7箇所、石垣の崩れ9箇所。特記事項:19日11時41分頃もマグニチュード6.7(震度5)の地震が発生。この地震でも九州の東岸から八丈島、父島で3~11cmの津波を観測。	「日本被害地震総覧 599-2012」(宇佐美龍夫著、2012年9月20日発行、東京大学出版会)P538-539 駿震時報第61号(1998)37-55頁(P50) https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/kenshin/vol61p037.pdf
10	23	新潟県中越地震2004	「平成16年(2004年)新潟県中越地震」発生:平成16(2004)年10月23日。マグニチュード:6.8。最大震度:7(新潟県 小千谷市)。被害:死者68名、負傷者4,805名、全半壊家屋16,985棟。特記事項:余震活動が活発で大規模な土砂災害が発生。	「日本被害地震総覧 599-2012」(宇佐美龍夫著、2012年9月20日発行、東京大学出版会)P573-577 気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai1996-new.html#higai1996 > 内閣府 災害状況 < https://www.bousai.go.jp/updates/pdf/jishin_niigata_64.pdf >
10	28	宮古島地方気象台創立記念日	昭和6年(1931年)8月、宮古島に甚大な被害をもたらした台風が襲来したことを契機に測候所創設の気運が高まり、昭和7年から台風期だけ臨時気象観測所を置くなどしていたが、最終的に1937(昭和12)年に中央気象台附属宮古島測候所として業務を開始。1965(昭和40)年には宮古島気象台に改称。1972(昭和47)年の本土復帰に伴い宮古島地方気象台に改称し現在に至る。	宮古島地方気象台HP 宮古島地方気象台の沿革 < https://www.data.jma.go.jp/miyako/about/history.html >
10	28	濃尾地震1891	濃尾地震。発生:明治24(1891)年10月28日。マグニチュード:8.0。最大震度:6(岐阜、愛知、滋賀、三重県の一部)。死者:7,273名。特記事項:国内観測史上最大の内陸直下型地震。この地震を機に「震災予防調査会」が設置されるなど、地震の原因究明のさきがけとなった地震。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai-1995.html > 内閣府防災情報のページ < https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1891_noubi_jishin/index.html >
10	31	西表島北北東海底火山噴火1924	西表島北北東海底火山のマグマ水蒸気噴火又はマグマ噴火(海水変色)。発生:大正13(1924)年10月31日。特記事項:海上浮遊軽石。噴火場所は西表島北北東沖。多量の軽石が日本各地に漂流。これ以降、変色水等の異常現象は認められていない。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/602_1riomotejimaNNE/602_index.html >

11月

月	日	記載名称	概要	備考
11	7	佐呂間町竜巻2006	佐呂間町竜巻(北海道網走市佐呂間町)。発生:平成18(2006)年11月7日。概況:発達中の低気圧の暖域内で竜巻が発生。被害:死者9名、負傷者29名、家屋全半壊等38棟。特記事項:藤田スケールF3と推定。	気象研究所現地調査報告 < https://www.mri-jma.go.jp/Topics/H20/tornage_sympo/tornado_sympo_1_3.pdf >
11	8	桜島噴火1779	桜島噴火「安永大噴火」。発生:安永8(1779)年11月8日。死者:150余名(噴石・溶岩流などによる)。特記事項:1781年までに海底噴火により津波が発生し船が転覆する等の被害が発生。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/fukuoka/506_Sakurajima/506_history.html >
11	15	台湾付近の地震1986	台湾付近の地震。発生:昭和61(1986)年11月15日。マグニチュード:7.8(USGSによる)。津波:50cm(平良港)、28cm(石垣)、19cm(那覇)。最大震度:3(与那国島)。特記事項:台北、花蓮地域で死者13名、負傷者45名の被害。	駿震時報第55巻第1~4号 < https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/kenshin/vol55p157.pdf > 台湾中央気象書 地震測報中心 < https://scweb.cwa.gov.tw/zh-tw/page/disaster/5 >
11	18	名護市で竜巻被害2006	名護市のキャンプシュワブ内での竜巻被害。発生:平成18(2006)年11月18日。概況:沖縄地方は前線を伴った低気圧の暖域内で大気の状態が不安定。被害:負傷者3名、車両被害21台、電力施設等の被害。特記事項:藤田スケールF2。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/2006111801/list.html >

月	日	記載名称	概要	備考
12	5	石垣島地方気象台創立記念日	明治29(1896)年12月5日に中央気象台附属石垣島測候所として業務を開始。1946(昭和21)年1月15日に米軍政府沖縄府八重山支庁通信部の附属機関として八重山気象台と改称。同年2月には再び石垣島測候所へ改称されるも、昭和40(1965)年に再度、八重山気象台へ改称。その後、昭和47(1972)年の沖縄の本土復帰に伴い石垣島地方気象台と改称し現在に至る。平成29(2017)年にはWMO百年観測所として認定された。選考基準は「100年以上前から現在まで観測している」など9項目にわたる厳しい基準があり、認定当時、百年観測所は世界で116か所で、日本では最初で唯一の観測所となった。	石垣島地方気象HP「石垣島地方気象台の沿革」 < https://www.data.jma.go.jp/ishigaki/guide/enkaku.html >
12	7	東南海地震1944	東南海地震。発生:昭和19(1944)年12月7日。マグニチュード:7.9。最大震度:6(三重県 津市島崎町)。地震・津波により死者・行方不明者:1,183名。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai-1995.html >
12	8	八重山丸沈没1952	「八重山丸」が石垣島の御神崎沖で遭難沈没。発生:昭和27(1952)年12月8日。概況:那覇から石垣向け帰港中の「八重山丸」が悪天のため石垣島の御神崎沖で遭難沈没。石垣島の御神崎灯台入口付近には八重山丸沈没事故の石碑が建てられている。死者行方不明者:35名。	石垣市HP < https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/soshiki/shishihe_nshu/1_1/3189.html > 愛媛県生涯学習センター < https://www.i-manabijp/system/regionals/regionals/ecode/2/48/vi-ew/6377 >
12	21	報得川氾濫2007	大雨により報得川が氾濫。発生:平成19(2007)年12月21日。概況:沖縄地方は、前線を伴った低気圧の暖域内で雨雲が発達しやすい状況であった。このため、局地的に雨雲が発達し、猛烈な雨が降り報得川が氾濫するなど被害が拡大した。被害:死者1名、床上浸水22件、床下浸水9件、山崩れ・地すべり3か所、道路損壊4か所。特記事項:糸満市付近で記録の短時間大雨情報発表、南城市へ土砂災害警戒情報。	沖縄気象台(気象災害報告 通年番号200731「2007年12月21日の沖縄県における大雨 強雨による洪水害 浸水害 山がけ崩れ害」)
12	21	南海地震1946	南海地震。発生:昭和21(1946)年12月21日。マグニチュード:8.0。最大震度:5(和歌山県 串本町潮岬など17点)。地震・津波により死者・行方不明者:1443名。	気象庁HP < https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/higai/higai-1995.html >
12	23	安政東海地震1854	安政東海地震。発生:嘉永7年/安政元年11月4日(西暦1854年12月23日)。マグニチュード:8。死者:2~3千名。特記事項:安政東海地震発生した約31時間後に安政南海地震が発生する。	「日本被害津波総覧[第2版]」(渡辺偉夫著、1998年2月25日第2版発行、東京大学出版会)P91-94 内閣府防災情報のページ(南海トラフ地震) < https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunno-keishou/rep/1854_ansei_toukai_nankai_jishin/index.html >
12	24	安政南海地震1854	安政南海地震。発生:嘉永7年/安政元年11月5日(西暦1854年12月24日)。マグニチュード:8。死者:数千名。特記事項:安政東海・南海地震の2回目の地震。「稲むらの火」で知られる浜口悟陵が津波から村人を救ったとされる地震。	「日本被害津波総覧[第2版]」(渡辺偉夫著、1998年2月25日第2版発行、東京大学出版会)P94-96 内閣府防災情報のページ(南海トラフ地震) < https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunno-keishou/rep/1854_ansei_toukai_nankai_jishin/index.html >
12	26	スマトラ島沖地震2004	インドネシア、スマトラ島沖大規模地震及びインド洋津波。発生:平成16(2004)年12月26日。モーメントマグニチュード:9.1。津波:インド洋沿岸の広範囲に発生。死者・行方不明者:30万人以上。特記事項:当時はインド洋沿岸を対象とした津波警報システムがなく、不意打ちの津波来襲となり、この地震を契機に整備が進められた。	気象庁HP < https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/faq/faq7.html#10 > 内閣府防災情報のページ < https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h17/bousai2005/html/honmon/hm140102.htm >
12	31	元禄地震1703	元禄地震。発生:元禄16年11月23日(西暦1703年12月31日)未明。マグニチュード:最大8.2。最大震度:相模湾から南房総にかけて6~7。津波:伊豆半島から相模湾さらには房総半島東岸の九十九里浜にかけて5mを超える大きな津波。被害:死者10,367名、住宅全壊22,424棟。特記事項:相模トラフで発生する海溝型巨大地震であったと考えられる。	「日本被害地震総覧 599-2012」(宇佐美龍夫著、2012年9月20日発行、東京大学出版会)P71-76 内閣府「元禄地震報告書」 < https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/pdf/genroku_light.pdf >